

# 嬉泉の新聞

• 嬉泉の新聞／第31号／1995年（平成7年）7月発行（年3回発行）  
 • 発行所＝社会福祉法人嬉泉・東京都世田谷区船橋1-30-9（〒156）  
 TEL 03-3426-2323  
 • 発行人＝石井哲夫      • 編集人＝友田篤

## 「障害福祉のリストラ」に思う

岡田喜篤

現在の北欧諸国における福祉觀では、「老人や障害者は新しい社会資源である」と位置づけられているという。ある成書によれば、老人や障害者がいるからこそ、今の自分たちの社会や生活が成り立っているのであり、この人たちの問題を考えることが、これから社会のあり方を知るてだてになるとを考えているからだという。

言われてみれば当り前のような理屈だが、このような見方を社会全体が支持しているというのはすごいと思う。世界中で福祉についてはつねに先進国といわれる北欧諸国だが、日本がそれを見習って同じものを実現すべきだとは思わない。私たちの日本が築くべき福祉とは、日本の社会に適合したものでなければならないからだ。しかし、人間觀とか福祉觀という点では、北欧諸国に学ぶことも多いのではないだろうか。

産業や経済も、科学や技術も、あるいは物質的な豊かさや便利さも、わが日本は十分に高い水準にあり、私たちはその恩恵にあずかって大いに感謝しなければならないと思う。しかしながら、もし自分が歳をとったりあるいは障害を受けた場合、今の社会に全幅の信頼をおいて生きていけるかと問われると返事に窮してしまう。わが国は、ここ約三十年、福祉に関して大いに努力してきた。むしろ、短い期間によくぞここまでというほど長足の進歩を遂げたと言ってもよい。それでも、自らの身が社会的な援助を必要とした場合のことを思うと、なお虚ろな気持ちを禁じ得ないの

は私だけだろうか。

障害児療育に輝かしい足跡を残され、この春に退任されたT先生に、「ご自身の老後という問題について、先生は今の社会を信頼しておられますか」と伺ったことがある。「とんでもない、信じるものですか。だから一生懸命貯金しとりますよ。」とあっさり言われて一瞬びっくりした。しかし、考えてみればなるほどというべきであろう。戦後五十年、わが国はひたすら真面目に走ってきた。それがいま、重大な岐路にさしかかっている。福祉のみならず、すべてに見直しが必要なかも知れない。

そんな折り、函館の「おしまコロニー」から、「障害福祉のリストラを考える」というセミナーにお招き頂いた。多くの人々が指摘するように、今は「世界が変わる、日本も変わる、そしてわが国の医療も福祉も変わらなければならない」という状況にある。特に、二十世紀の科学や経済の発展は、私たちに物質的な豊かさや便利さをもたらしたが、それはことによると、私たち人間にとて大切なものを犠牲にした上での結果なのかも知れない。一般的な意味においては先進国に仲間入りしたわが国であるが、これからは人間にについても高い理念と優れた対応を示す必要があると思う。二十一世紀を間近に控えた今日、障害福祉のリストラとは、優れた思想の市民的レベルにおける徹底といえようか。

(国立秩父学園 園長)

長会議で、厚生省児童家庭局本橋障害福祉課長が冒頭「自分が引き揚げ孤児で施設で育てられたので、子どもを育てている施設やその職員には特別な思いがある。本当にそういう思いでこの仕事をしている」と言われたことを聞き、課長がこういう話を率直にされたことに感動し、私なりに感慨にふけた。

実は、私の心の奥に社会福祉施設（とくに入所施設）への愛着があることに気づいていた。それが何故かよくわからないのだが、課長の話しをきいて、少し気がついたことがあつた。私は、学生時代にアルバイトとして、当時上野にあつた養護施設（現在、八王子市にある「子どものうち八栄寮」）に住み込んでいたことがある。当時（昭和23年～24年）は、引き揚げ孤児や戦災孤児のためにつくられた施設があり、浮浪児なども入所していた。時折思い出す子どもの中に両親を亡くして満州から祖母と引き上げて来た「しんちゃん」という4歳ぐらいの子どもがいた。この施設では、小学校高学年から中学にかけての年長児が多くたので、この「しんちゃん」は皆から可愛がられていた。「しんちゃん」の祖母は、施設に孫が丸抱え

で世話になるということを申し訳なく思い、多分70歳近いからだで毎日のように施設の洗濯をボランティアでしていた。「しんちゃん」が、おばあさんの来る頃、窓のところに来て小さな声で「おばあさんが来ている」とつぶやくのである。一緒に生活したくとも出来ない肉親の情に観ているものもうたれないのであつた。「しんちゃん」の祖母は、他の子の手前、隣では会つても皆の前には出るのを遠慮していたし、幼児の「しんちゃん」もそれをわきまえていた。それ故に、職員も仲間も肉親のようにならなかった。おばあさんが来ている」とつぶやくのである。一緒に生活したくとも出来ない肉親の情に観ているものもうたれないのであつた。「しんちゃん」の祖母は、他の子の手前、隣では会つても皆の前には出るのを遠慮していたし、幼児の「しんちゃん」もそれをわきまえていた。それ故に、職員も仲間も肉親のようにならなかった。おばあさんが来ている」とつぶやくのである。

## 施設経営の創造性

(その二十二) 石井哲夫

ろうとしていたようである。

このよだな状況は、今の施設には無くなってしまっている。何故なのであらうか。戦後もなく作られた施設は全てが「何とかしなくては」「座視しておられない」などという、止むに止まれぬ援助心から作られたものであつた。お

めようとする子どもとの共同生活が営まれていたのであつた。

それが時代の変遷で、いつしか勤める人も入所する人もこの援助行為をよいことをしているという認識がなくなってしまっていけるのであらうか。働く人の労働条件をよくすることも権利なら、自分たちで身近な者を施設に入所させの権利も守られているが、権利感覚では到達しないこの仕事の自然発生的なよいことをしているという喜びがあるということを忘れてはならないのである。

そしてこの自然発生的な喜びは、常に正直な人間の気持ちや責任を感じる気持ちなどが交錯することから感じられることが多い。

前述のよう、人間生活の様々な経験の中で、肉親の情とか他人の愛など、自然に發揮される人間感覚が、この養護施設の生活で体験され、世の中の無情を補おうとする人たちや、共に傷ついた人たちが相寄つて気持ちをなぐさめあかい合い、疑いもなくよいことをしている職員とその人への信頼感を頼りに新しい施設の生活をはじめていた。

痛感したのであつた。

以上のことから言いたいことは、

私が体験した社会の弱者の救済と

いう社会的必要性こそ善意なる人間関係の場を作るということであつた。それが、今日のような施設を消極的に観なければならなくなつたのは何故か。

社会福祉施設に発生する善意が、止むに止まれぬ援助心の現れとして当然であり、世話になる側も世話をする側も、自分のすることには限界があり、お互いの分をよくわきまえていた。施設側では、この子にとって本当に必要なのは、血の通った家族で、その関係を絶やさないよう家族側も施設側も暗黙の了解があつた。

それが今や無視されてきているようにも思える。

もう一度、社会福祉施設では、何が出来るのか、何をしようとしているのか、という根源に立ち返って、この仕事によって利用者の身上に何がおきるのかを現実的に考えてほしいと思うのである。

施設は入所している人の家族関係にもっと目を向けなければならぬ。そして、この人が生活向上させるための条件を真剣になって取り入れていかなければならぬ。

この世で好ましく存在することを、特に民間の主体的な仕事への理

念を明確にし、全職員に目を醒ませて、もつと力を出して、利用者の福祉の向上について主体的にかかわるようしなければならない。

地域の人たちや行政に向かって施設の考え方、実践していることを知らせて、了解をとりつけるようにしなければならない。施設で働く人たちが、きちんとスーパー・ビジョンを受けさえすれば、自分の仕事の中で、何をすることが大切なことであるかがよく

## 阪神淡路大震災支援報告

金沢信一

阪神淡路大震災が報道され、その被害の状況から、なにかやらねば、と思ったのは、誰もが共通するものだったでしょう。石井所長の許しを得、柴田洋弥氏の仲立ちで、社会福祉法人嬉泉の職員として、神戸市障害者緊急ケアーセンターに一ヶ月の長期にわたって支援が出来、貴重な経験を得ました。

災害医療と同様、災害福祉といふ領域があり、都市が機能を失う大きな災害に、ボランティアを中心とした組織づくり、全国的な要員派遣体制などによる特殊な福祉援助が必要です。伊豆高原で長年、「合宿」というサバイバルな課題

わかるはずである。人間が組織の中では、悪しきを受け入れ、悪貨が良貨を駆逐するという諺のように、全体が福祉援助から遠ざかってしまったことがよく起きることを知るとすると、今のような安易な施設運営を放置しておくことは望ましくないのである。施設で働く喜びこそ誰に対しても譲ることのできない施設処遇の原点なのである。

本橋課長の話をきいたことから、私自身が施設にこだわる原点を反省させられたのであった。

状況での職員研修を続ける社会福祉法人嬉泉などは、災害福祉に近いノウハウがあると思います。

### ▲ケアーセンターでの役割▼

神戸市障害者緊急ケアーセンターは、一般的の避難所では暮らせない障害者の避難所です。場所は、神戸市の一大福祉ゾーンのあわせの村にあります。私はここで、公的な立場ではありませんが、柴田氏から実質的なコーディネーターの役割が求められ、本部とボランティアをつなぎ、いわば寄せ集めの外人部隊のボランティアのチームワークを作りより良い支援への努力をしました。ところが怖い目

つきでは誰も近づきません。私は、笑顔の大切さを知りました。挨拶、言葉遣い、ほほえみは見知らぬもの同士がこころを合わせるためにの必要で有効な手段です。そして、ある夜、寝ていた私の目の前に多くのボランティアがいて、利用者間のトラブルで、ある利用者が部屋から追い出されたというニュースに對しても譲ることのできない施設処遇の原点なのである。

本橋課長の話をきいたことから、私自身が施設にこだわる原点を反省させられたのであった。

状況での職員研修を続ける社会福祉法人嬉泉などは、災害福祉に近いノウハウがあると思います。

▲ケアーセンターでの副産物▼

ケアーセンターだからこそ、様々な人たちとの交流がありました。ベテランの施設職員も学生ボランティアも日常から離れ、立場を越えても、最も無い中で、一期一会の出会い、友好、仲間意識の成立に喜び、別れを見送り、見送った人もいつか見送られる立場となり涙を流しました。

# 皆々様に支えられて

## 感謝のご芳名

### ☆ご寄付をいただいた方

平成六年度（平成六年四月より平成七年三月）、本部及び各事業所に金品のご寄付をいただいた方々のご芳名を掲載させていただきました。衷心より感謝申し上げる

次第です。なお、年一回のバザーの開催に際しても、多大の方々のご協力をいたしておりますが、紙面の都合上とても掲載しきれませんでした。どうかご了承ください。

い。（順不同）

小原瑞穂様、田中構造研究所様、内藤喜久子様、浜園利夫様、中西健一様、中村二三男様、奥村俊之様、土谷新様、鈴木豊子様、嬉泉後援会様（株）クリルート様、瑞穂工業技術研究所様、竹内靖夫様、武居工務店様、玉川高島屋様、池上やすこ様、山岸敏男様、早瀬進様、時永康男様、高田昇一様、村田操様、坂本病院様、山中勝子様、山口潔様、吉原勝彦様、東洋英和

女子園短期大学宗教部様、晃商事様、村田博様、千歳丘教会様、伊藤温様、納土郁子様、田村匡様、㈲長田屋起業様、新妻和枝様、ひかりのガレージセール様、ひかりの共済会様、岡庭博様、斎藤穂様、田辺和夫様、井出守安様

### ☆袖ヶ浦地域協力者

昨年度の袖ヶ浦地域でのボランティアの方々、利用者の雇用や実習を受け入れて下さった事業所、また、日常的に「のびのパン」等の販売に協力して下さっている方々、養鶏・牧場作業に無償で野菜や貝殻等を提供下さる方々、毎日の買物指導や週末帰宅の際にご協力下さっている方々あるいは地域での各種のイベントにお誘いくださったり、その他様々にご協力をいただいた方々のご芳名です。

（順不同）

袖ヶ浦市社会福祉協議会様、袖ヶ浦ボランティアセンター様、機織店メンバーコンペティション（12名）、

神田剛様、永原睦子様、鶴見京子様、スパーしんめい様、ビジネス旅館長浦様、ダスキン袖ヶ浦店様、新王子製紙袖ヶ浦工場様、かど様、竹虎様、オリエンテ様、袖ヶ浦市広報課様、財政課様、環境保全課様、JA長浦支店様、同根形支店様、シマムラ文具店様、主婦の店さつき台店様、ブックセントラーフォトイマゼキ・渡辺・山本様、いその文具店様（店頭の八百屋さん）、シバサキ建設様、福音台保育所様、根形保育所様、久保田保育所様、昭和中学校様、三育フレーズ様、とんかつ不二亭様、袖ヶ浦市民会館様、根形公民館様、平川行政センター様、長浦公民館様、平岡公民館様、袖ヶ浦市郷土博物館様、袖ヶ浦市消防本部様、鍋島金物店様、村山ダクト製作所様、花川金物店様、保坂石油様、根形自動車様、黒木照子様、新谷多恵子様、加藤義明様、池田久司様、比和野京子様、明峯和子様、提橋元子様、野里公文塾土屋様、斎藤とも子様、三浦トヨ子様、松崎きみ子様、秋元カク様、富士食堂様、藏波小学校様、鈴木建材様、トヨー施工様、新双葉土木様、中西健一様、賀戸文彦様、櫛橋武雄様、岩谷徹郎様、伊藤昭彦様、永井たま様、済田安司様、済田順子様、道敏様、河津緑様、奥田けい様、中西健一様、賀戸文彦様、櫛橋武雄様、岩谷徹郎様、伊藤昭彦様、永井たま様、済田安司様、済田順子様、金箱光人様、藤宗篤雄様、大竹光枝様、石岡幸則様、佐村浩之様、五井野龍雄様、村田宗代様、村沢静子様、桜井雅也様、吉川商

レブンさつき台店様、松本一男様、渡辺義一様、黒川孝男様、仲田由産様、大橋屋豆腐店様、遠藤隆吉様、ミニストップ長浦店様、セブンイレブン袖ヶ浦店様、袖ヶ浦駅キオスク様、鳥海商店様、日本道路公団習志野パークリングの皆様、ソイレブン袖ヶ浦店様、袖ヶ浦店所様、手作りケーピーニー様、春日裕様、古川皮膚科医院様、河村義昭様、袖ヶ浦ロータリークラブ様、長浦駅様、EMの会長竹則子

### 子どもの生活研究所改築基金 ご協力有り難うございました

（平成六年六月一日）

（平成七年三月三一日）

青瀬美智子様、小川再治様、石嶋雅司様、菊池妙子様、高崎廣様、田中恵美子様、広瀬秀俊様、高田道敏様、河津緑様、奥田けい様、中西健一様、賀戸文彦様、櫛橋武雄様、岩谷徹郎様、伊藤昭彦様、永井たま様、済田安司様、済田順子様、金箱光人様、藤宗篤雄様、大竹光枝様、石岡幸則様、佐村浩之様、五井野龍雄様、村田宗代様、村沢静子様、桜井雅也様、吉川商

事様、清水正弘様、田村聰達様、斎藤亨様、三好テツ子様、エヌシーエル様、山口潔様、笠松茂樹様、橋元祐之様、井上トヨ子様、江川英晴様、木村朝彦様、村岡精一様、松尾洋光様、寺田音人様、渡辺和豊様、山森松江様、高橋正直様、高橋豊様、柳リムライト様、古賀明美様、後藤成男様、池上やすこ様、武井慶彦様、木村孝雄様、吉原勝彦様、伊達宗禮様、宇佐美斌様、菅尾伸二様、井出守安様

## 実習から就労へ

WALK BEHIND—自閉症の人とつきあうときの要件だと、

亡くなつたミスターこと小野法郎先生がよく口にしていた。

利用者の後から辛抱強くついて行く、先にたつて強引に引っ張つていいくのではなくて、彼等の前に

状況を提示し、かれらの自発性に期待するといったところだろうか。

今でこそ強度行動障害などといつているが、当時はつわものぞりいで、毎日の生活をなりたたせるだけに、一日を無事おわらせることがだけに職員は神経を磨り減らしていった。そんな中での職業指導、社会参加。思いもよらなかつたこ

とだが、10年あまりの間に、販売を核とした作業体制がなんとか形をなし、同時に利用者の地域での実習も始まった。

設計事務所の手伝いから、スパー、旅館の手伝い、D社の製品管理、S社の環境整備と徐々に実習先がふえてきた。

利用者自身の成長・変化によるところが大きいが、地域、事業所の方が利用者を理解もらえることがなにもまして大きな背景になつているように思う。

昨年からお世話になつているKスパーの社長さんも、子どもの



時から店を手伝い、その頃店はA病院の精神障害者を受け入れ、一緒に仕事をやってきたそうだ。実習も「数（労働力）としては期待しない、彼らの社会参加のためだ」とここによく引き受けさせてくださった。その上、鶴の一聲で最低賃金も保証していただけた。

今年度からは地域の事業所のみならず、企業の本社にあたり実習先の拡大を試みている。より利用者の希望や能力がいかせる職場を探すためだ。幸い数ヶ所から受入が承諾された。D社では6月か

らひとり新たな実習に取り組んでいる。値段票をパソコンで入力する仕事だ。頑張ってなんとか正規の採用になつてくれればと願っている。実習ひとつとっても利用者はここまでやれるようになつた。これ

から彼らはどこまでやることができるだろう。やはり、WALK BEHINDかと思つたりする。  
(川相 智史)

# 嬉泉の出来事

〈子どもの生活研究所〉

## 子どものへや

五月十九日、(金) 子どものへやの保護者会「夕方の会」を行ないました。

子どものへやは現在、六ヶ月の赤ちゃんから五歳のお子さんまで、十三名の子ども達が共に生活をしています。毎日、連絡ノートでその日の体調や食事の内容、遊びの様子などお知らせしています。ご家庭からも、お家の様子や要望、注意事項など必要に応じて知らせていただいています。

文書だけでなく、日常の遊び、友だちや先生とのかかわりを知つていただこうと、昨年度までは学期に一回、ビデオを観てのお話し合いを行なっていました。しかしお仕事をしていらっしゃるお母様方にとつて、日中の出席はとても難しいものです。参加して下さる方が少なく残念に思つていまし



は五時三十分からとし、お子さんは二階でお預りするという形になりました。こぐま・すこやか学園、お迎えは五時~六時なので、会

時間十五分程度の時間でしたが、和やかで楽しい会でした。

今まで一人で育てているような心細さがあったが、大勢の先輩のお母さん方が味方になってくれたような心強さを感じた」という感想がありました。お母様同士のつながりができることもよかったです。

「夕方の会」が学期に二回位行なうことができたら良いなと考えています。(石川 章子)

## 袖ヶ浦

### 温泉一泊旅行

袖ヶ浦ひかりの学園では予てか

子どものへやの職員総がかりで初めての試みを取り組みました。当日は十名のお母様方が集まつて下さいました。「お帰りなさい」「○○の母です」「はじめまして」など次々迎えられるお母様方。雑談の中にも、指しやぶりのこと、トイレットトレーニングのこと、多くの方にお子さんの姿を通して、子どものへやでの保育の様子を理解していただきたいと考え、「夕方の会」を行なうことになりました。

お迎えは五時~六時なので、会は五時三十分からとし、お子さんは二階でお預りするという形になりました。こぐま・すこやか学園、

翌日、空は快晴。窓から悠々とそびえ立つ富士山を望みながらホテルを出発、そして三津浜シーパラダイスでは、水槽の前で魚を眺め続けている人、イルカやラッコのショーに見入っている人達と、皆さん集合時間を忘れ楽しんでいました。帰りのバスの中で、あるご父兄の方が「うちの子がこの様に大勢の皆さんと一緒に旅行へと行けるようになったのですね」と話して下さいました。この旅行は

この最高の一言と共に成功に終りました。そしてこの旅行でお手伝いして下さったご父兄、名鉄観光の方々、又ホテル関係者の方々に深く感謝したいと思います。(鈴木 雅士)

らの利用者の希望により、三月十日~十一日にかけ、利用者、父兄、職員あわせて100名近くの大所

帯で伊豆長岡温泉に一泊旅行へと行つてきました。当日の草土サファリパークでは、皆さんバスの窓越しにから興味深く眺め、いろいろな動物が現れる度に、まるで恐竜で見るかのように喚声を挙げていました。ホテルに到着後、親子で温泉に入り、日頃の疲れを癒すかのように長々と湯船に浸かり、幸せな一時を満喫していました。

## 春を楽しむ会



平成七年五月十日、のびろ学園ひかりの学園では、「春を楽しむ会」が行われました。今回は皆が注目し参加できる物をと言う事で、「餅つき大会」を行いました。さて、いかに利用者の方に春を感じていただか。考えた末、お餅はよもぎ摘みをお願いしました。のびろでとれた新鮮な竹の子も味わうことにしました。

初夏を思わせるような日差しの中、グランドにてお餅つきは始まりました。最初に石井所長から、

暖かい日差しとゆつたりとした雰囲気の中、職員と利用者が和氣あいあい過ごした貴重な時間でした。夜は、菖蒲湯にしてみました。春は楽しめたでしょうか。

(船山 昭信)

### 〈赤塚福祉園・授産施設〉 はばたきグループの近況

平成七年度の新入園者十一名を迎えた。はばたきグループは一気に二十三名の大所帯となりました。

五月から店舗清掃の仕事が加わ

紙芝居を使った、お餅ができるまでとそのつき方の解説がありまし。良くお話を聞いている人もそうでない人もいたようですが、いいよいよ本番です。石井所長が醸し出すゆつたりとした雰囲気の中、そして皆の応援の中、一人一人眞剣にお餅をついてくれました。ひかりの方にはお餅のまるめまでお願いしましたが、これも眞剣それが押してしまい、のびろの方を待たせてしましましたが、待った甲斐あってお餅への注目度がとても高かつたようです。

つき上がったお餅は皆でいただきました。お餅の好きな方は、会場へ足を運んでいました。

暖かい日差しとゆつたりとした雰囲気の中、職員と利用者が和氣あいあい過ごした貴重な時間でした。夜は、菖蒲湯にしてみました。春は楽しめたでしょうか。

(船山 昭信)

『愛育ベビー』板橋区内に本社のある育児用品のレンタル会社からの仕事で、カタログに時節のチラシ類を挟み込む作業。

『NTT』豊島区に本社がある運輸会社からの仕事で、押し花電報の袋を五枚づつ紙の帶で止める作業。

その他、簡単な組立て作業が数種類ありました。

◇新しい仕事

石井所長にお願いしてデザインしていただいた印章が出来上がりました。丸形は湯呑みなどの小物の作品に、角形は皿類などの大きな作品に、角形は皿類などの大きな作品に押印する予定です。嬉泉の『泉』をモチーフに、「人間社会のこよなき喜び、女性が樂しく笑っている。。。その源泉ともいうべき嬉泉。。。」というデザインメッセージをいただきました。秋のバザーにはお披露目出来ると想います。

(畠田順三)

紙芝居を使った、お餅ができるまでとそのつき方の解説がありまし。良くお話を聞いている人もそうでない人もいたようですが、いいよいよ本番です。石井所長が醸し出すゆつたりとした雰囲気の中、そして皆の応援の中、一人一人眞剣にお餅をついてくれました。ひかりの方にはお餅のまるめまでお願いしましたが、これも眞剣それが押してしまい、のびろの方を待たせてしましましたが、待った甲斐あってお餅への注目度がとても高かつたようです。

つき上がりお餅は皆でいただきました。お餅の好きな方は、会場へ足を運んでいました。

暖かい日差しとゆつたりとした雰囲気の中、職員と利用者が和氣あいあい過ごした貴重な時間でした。夜は、菖蒲湯にしてみました。春は楽しめたでしょうか。

さて、新入園の利用者ですが、自閉傾向の方が三名（一名は他の作業所での経験があります。）おり、個別の関わりが求められます。その他、医務上の注意を要する方などがおり、職員は気の抜けない毎日です。

さて、新入園の利用者ですが、自閉傾向の方が三名（一名は他の作業所での経験があります。）おり、個別の関わりが求められます。その他、医務上の注意を要する方などがおり、職員は気の抜けない毎日です。

### ◇陶芸作品に押す印



# ひかりのタイムス

独立第25号

ひかりのタイムスは、嬉泉広報責任者の友田氏がアドバイザーで、利用者の山岸が編集長をしています。

つづぎの家で生活して

(その一)

田中 雅也

僕は、千葉県袖ヶ浦市へ16年間通っている中でのびろにいてから、あゆみにいてから、ルンルンアパート職員寮にいてから、あゆみにいましたけれど、僕は「卒業してひかりの学園のメンバーからはじめて欲しい」と希望を持っていました。

昭和59年10月から、平成3年4月まで、ルンルンアパートで、僕はY君と一緒に生活している間は掃除はしたけれど、料理をしてはいなかっただし、洗濯はしなくとも、平成元年に川相豊子先生の家事指導で靴下を洗うのをやった時川相豊子先生から「田中君の方が上手」と言わされた事がありました。僕はいつまでたっても学園の施

設にいたくないとの希望は戸屋先生もわかっているし、平成6年5月自立訓練棟がサイクリングロードの所に創立して、ここがつづきの家となりました。

このつづきの家は、平成5年5月に、M・T君のお父さんが寄付して協力したのです。このつづきの家は前川記念館とも言えます。このつづきの家は誰でも入れることもないし、希望出した人が入れる事でもないし、つづきの家では職員が1名で男の利用者が3名女性の利用者が2名で合計6名が入れるのです。

このつづきの家の主任は小野多規子先生で、あゆみの主任は平成7年3月までは戸屋先生。平成7年4月からは大川先生。

月家賃払う事が出来るまで、仕事をするのと健康管理と洗濯と掃除が出来るようになります。のびろとひかりのでは、家賃は無料でお金は払わないのでいい。

つづきの家では食事は自分自身で作るのが大切です。施設と別にこの僕はルンルンアパートにY君と生活をしていた時に苦労がありまして、この時から僕はY君と同じ部屋は、やになりながら、嫌

切です。他に食器を洗うのが大切な事です。

この僕はルンルンアパートにY君と生活をしていた時に苦労がありまして、この時から僕はY君と同じ部屋は、やになりながら、嫌

うにする為に、苦労したのは、健康管理に充分気をつける為、水などの食事中に水分を取り過ぎるのを水分を減らしながら我慢をした所です。

このつづきの家にいる人とうまく生活するのも大切です。僕はつづきの家に入れるようになる為毎週蕨根駅前のスーパー・マーケットかどやへお金を稼ぎに通つております。僕は今火曜と木曜の午後。水曜と金曜は、午前も午後も1日です。土曜と月曜もかどやへ行く事は、今は僕は考え中で、月曜と土曜かどやへ行くのは始めはつらいけれど、慣れれば気分が変わる。

(袖ヶ浦ひかりの学園利用者)  
(つづく)

